九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学とアート ： 過去から未来へ

後小路，雅弘
九州大学大学院人文科学研究院 ： 教授 ： 美術史

https://hdl.handle.net/2324/12491

出版情報：貴重文物講習会. 13, 2008-10-24. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

平成20年10月24日（金） 中央図書館新館4階 視聴覚ホール　後小路雅弘

貴重文物講習会 第13回（平成 20 年度 第 7 回）

九 州 大 学 と ア ー ト －過去から未来へ－

はじめに―赤タスキで応召した肖像たち

平成18年度・19年度P＆P＝九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト「大学とアート～〈公共性〉の視点から」

なぜ「大学とアート」なのか

1． 青山熊治「九州大学工学部壁画」をめぐって

- ▶ 題 名 「九州大学工学部壁画」
- ▶ 作 者 青山熊治（明治19年生～昭和7年没）
- ▶ 制作年 昭和7年（未完） 設置 昭和8年5月3日
- ▶ 油彩・画布 257cm×572．3cm
- ▶ 中央下部に金属板「西川博士還暦記念 昭和7年 筆者 青山熊治」
- ▶ 設置場所 旧・九大工学部本館4階 第二会議室

西川虎吉博士（明治元年～昭和23年）大阪生まれ。明治41年から九州帝国大学工科大学校教授。昭和4年退官。

《資料》

昭和四年僕は停年で九州大学を退職したので、有志諸君が何かこの際記念品を作ってやらうと云ふ計画があった。大正十二年に工学部が焼けて、その復旧工事が昭和五年に出来ることになってゐたのでこの私の記念品として、その会議室に壁画を作らうと云ふことになった。

欧洲各国の大学や、公の建築物は必ず絵画や彫刻の様な美術品で飾られてゐる。我国に於ても将来大建築物と共にこの美術品が遺される事は、色々な点に意義を齎らすものであると思っていたので、この際壁画でもつくって戴けたら、誠にいい記念ともなるし、喜ばしいことだと思ってゐた。

（略）早速昭和五年一月に現場へ青山君に来てもらって、いよいよ横十八尺、竪八尺五寸の壁画を引受けてもらふ事になった。もっともその時すでにおよその画稿を持って来てゐたので、大学の中山などと云ふ鑑賞家（註6）にも相談していよいよ図もきまったわけで、その時の青山君の喜びは一通りでなかった。

西川虎吉（談）「故青山熊治氏の人と絵」『美術新論』8巻2号 1933年2月号 79―84頁

2．肖像画と肖像彫刻

（1） 総長たちの肖像画

岡田三郎助「第2代総長真野文二像」1922年／山喜多二郎太「第3代総長大工原銀太郎像」1932年／和田英作「第4代総長松浦鎮次郎像」1938年／中村琢二「第9代総長菊池勇夫」1953年頃

（2）　博士たちの肖像画／肖像彫刻

鹿子木孟郎「宇佐見桂一郎先生像」1928年／満谷國四郎「高壮吉先生肖像画」1930年／和田三造「不詳」／朝倉文夫「西川虎吉先生の像」1930年頃／「大森治豊先生像」三代　山崎朝雲・松尾薫（昭和28年胸像）・小田部泰久（昭和48年）／原田新八郎「吉田とめ女像」

3.　中山森彦博士（慶応3～昭和32年）が愛した仙厓の洒脱

明治40年九大医学部（京都帝国大学福岡医科大学）第二外科の第2代教授に。弟は中山平次郎博士。仙厓関係資料106点が妹小春により昭和34年文学部に遺贈。

仙厓義梵（せんがいぎぼん）（1750～1837）。江戸時代後期の臨済宗妙心寺派の禅僧。40 歳から 62 歳に至る 23 年間を聖福寺の第 123 世住持としてすごす。本格的な作画は住職を退任した以降で、禅の教えをユーモアをもって描き、その画は仙厓の人柄とともに博多の人々に親しまれた。

4.　美術と美術でないモノ

南薫造「古城朝暾(白鷺城)」1917年／多々羅義雄「（博多湾鵜来島遠望）」1928年／安永良徳「青陵の泉」1968年

久保記念館　1927年／ストックアンカー　1932年／構成見本園（永見健一）　1935年／釜掛けの松／ムラージュ

まとめに代えて―九大とアートの新たな関係を求めて

（1）　伊都キャンパスのアート・プロジェクト

林明弘（リン・ミンホン／マイケル・リン）「グリーンハウス」2008年、

たほりつこ「QIAO　チャオ」2006年、栗本夏樹など

（2）　旧工学部本館をアートセンターに

主な作家（補遺）

満谷國四郎（みつたに　くにしろう）1882-1958

東京都に生まれる。浅井忠、中村不折に師事。パリでジャン＝ポール・ローランスに学んだ。太平洋画会会員として活躍。1907（明治40）年森田恒友、山本鼎と雑誌『方寸』を創刊、翌年木下杢太郎、北原白秋らのパンの会に加わる。文展には第1回から出品し、1913（大正2）年第7回文展に「滞船」で2等賞を受ける。1914（大正3）年二科会結成に参加。1936（昭和11）年一水会を創立する。